



「気軽に相談」が第一歩

家族や自分の保険について、どのようにお考えですか？結婚を機に保険への加入を意識したり、新しい家族の誕生をきっかけに保障を見直そうと考えている方が増えているようです。ところが「どんな保険を選んだらいいのかわからない」「勧められるままに加入したけど、本当に自分に合っているの?」「CMでよく目にする保険が気になるけど…」など、さまざまな不安や疑問を耳にします。

盛岡市名須川町にある保険の総合代理店アイドカの情報提供スペース「なある情報館」では、お金のプロが複雑そうな保険の疑問をわかりやすく解説。保険と私達をつなぎ、日々の生活をより良い方向へと導いてくれます。

「たくさん保険商品がありますが、最低限必要な保険というのは年代に関わらず共通しています。保険初心者の方は、まず基礎づくりからはじめましょう」と、社長の田中広江さんはいいます。そこで、最も身近な総合医療保険など、ペーソとなる保険を選ぶときに役立つ3つのポイントをご紹介します。



保険業20年の大ベテラン。お客さまの信頼を一心に集めるアイドカ社長 田中広江氏

初めてだから、確かなものを 保険の悩み一掃で、明るい未来を提案します

ポイント その1 終身型にするか更新型にするか

終身型は加入時の保険料から変化しないのが特徴です。例えば、30歳時に加入した保険料は60歳、80歳、100歳になっても死亡時まで変わりありません。一般的に、加入時の保険料は年齢に比例します。そのため、終身型を希望する場合、なるべく早い時期に加入することをお勧めします。

一方、更新型の魅力は、終身型と比べ加入時の保険料が安いということ。ただし、保障期間を終え更新する場合に、更新時の年齢で再度保険料が設定されるので、保険料は上がります。つまり、長期の保障を希望する場合は終身型、短期の場合は更新型が適しているといえます。

ポイント その2 保険料給付日数の限度を設定

医療保険や入院保険などは治療や入院期間によって、経済的な負担が大きく変わってきます。

例えば、給付日数30日の入院保険に加入していて、1か月で退院できればいいのですが、入院が3か月に及んでしまった時には、残り2か月分の入院費を自己で負担しなければなりません。十分な蓄えがあるなら問題はありませんが、場合によっては大きな負担を強いられます。最近では、給付日数30日から1095日と選択の幅が広がっていますので、家庭の状況を考慮して無理のない設定をしましょう。

ポイント その3 主契約にするか特約にするか

主契約の良さは保障内容や解約事項に制限が少ないということ。また、特約は定期保険です。一定の期間で保障が切れます。また、特約のみの契約はできないので、主契約を解約すると同時に、特約も解約されることとなります。

単体での加入を考えているのであれば、それぞれ主契約として申し込むのが良いでしょう。

反対に、特約は主契約と比べ保険料の安さが魅力ですから、保険に補助的な役割をお考えの場合には心強いといえます。



保険のあらゆる疑問を即座に解決。親しみやすいていねいな対応に、お客さまから感謝の声も

まだある！ 保険の活用法 教えます！

「学資保険や妊娠時に加入できる保険のほかに、配偶者が亡くなった場合に以



なある情報館でもひとときわ明るい笑顔の館長 高橋ミドリさん

後の保険料が免除になる保険など、最近では、保険の種類が豊富です。その反面、保険の利点や活用方法をあまりご存じない方が多いようです。知っておけば、今すぐでなくともいつかは役立つもの。気軽に「ご相談ください」と、なある情報館の館長、高橋ミドリさんはいいます。

ほかにも、思っていた保障がされなかった、将来の貯蓄が気になるなど、抱える悩みは人それぞれ。小さな疑問も放置せず、早期のうちに解決しましょう。

なある情報館では、毎月開催している「ニコニコ保険相談デー」が好評です。賢く活用して、備えと潤いのある生活を送りましょう。